

東京電力のベンチャー企業で法人向け研修やコンサルを手がけるセリングビジョン（東京都港区、岡部秀也社長）は昨年11月、対中ビジネスの拠点として北京事務所を開設した。急速な経済発展を遂げる中国は、

日本企業にとっても重要な市場。「日中間の懸け橋に」と抱負を語る北京事務所長の張品磊さんに、対中ビジネスのコツ、五輪開催を控えた北京市内の様相を聞いた。

(聞き手＝土方 紗留)

このテーマ人

国交正常化節目の年 北京に事務所を開設



BCTの成功の裏には、中国側との綿密な交渉も（写真は北京大学の前で、セリング・ビジョン幹部やBCT試験関係者と）

中国政府や北京大学との交渉、調整を重ねた。この上は縁故を生かして今後、中間の企業とのコミュニケーションの制度を高め、関わりを続ける相手国をいくつか選んでいく。

——中国での事業展開は、日本企業にとっても終いには、国力強国としても終いには、

「経済強国を築いていく中国は、今後改めて国力の高まりも目覚めます。しかし中国の国力強国は、もはや従来の火力で

——北支那警察開設から
むすむす月が経過しました。
その所見就任以前は、日本
企業は助勢をされていたとの
ことですね。

大谷孝彦氏、日本の盛
衰繁栄にあらたに中国政
府・甲寅憲法に心を尽し
ました。その後、1908年から
2年にわたり、中国政府から
宋教仁氏、梁鴻志氏を受け
ました。以来東京大学院
に学んだり、梁鴻志グループ
で活動する機会を得ていま

上

現在、急遽に経済危機を遂げつつありますが、今後どうなっていくかは、今懸念されてくれています。中野は「これは、科学的・技術的な発展が不可欠です。国債保全や省エネ、臨陣リサイクルといった日本技術のせむひ、中国の発展のためにも活用されたい願います」

◆ ◆ ◆

——対中市場は、や、日本企業にとって成長に不可欠な存在になっています。

「ロウは學問に関する知識のみならず、中國でのビジネス展開に必要な知識にわたる。中國でビジネスの流儀も求めているのが特徴です。たとえば、中國人にとって貨幣は商賈の上で非常に重要なものでありますが、ロウのなかでも資金の手廻りや仕度、マナーを題材とした説話が数編あります」

「また、ロウの実施にあたつて北平務所では、



セリングヒジョン北京事務所長 張 晶磊さん

三感 忘れず日中の懸け橋に

「この間、私は聯合怠機メーカーや鉄鋼業界、自動車メーカーなど日本を代表する名たる企業を訪れ、世界に誇る技術の先進性やノウハウを肌

「今回開設した北京事務所です。手なげたのが、中国政府会館の中国関税初試験です。このうち日本初の実施となった「ボーンズ中国関税初試験（BOC）」は約500人が受験。商社と自動車メーカー、総合大学などからの受験が目立ち、日本企業の中国市場開拓へのニーズを強く実感しまし

贈っているのが現状。温暖化防止の観点からも中国政
府は原子力の増設、自然エ
ネルギーの推進といった方
針を打ち出しており、日本
企業にとってはエネルギー
分野でも商機が見込めま
す。北京事務所ではエネル
ギーや環境、ＣＤＭ関連ビ
ジネスの調査やコンサルテ
ィングへも今後事業分野を

一 公共の交通機関での列強車、席の割り合いなどはや当たり前。最近では海外の方とのミニニケーションを円滑にしようと、町内会で一日一贈する英会話を授かるといった取り組みも出てきた。国を挙げて五輪を成功させようという意識は、岩手県民に浸透している。

オリンピックへの期待と活気にあふれています。北京市ではほぼ毎日、タクシー全面禁煙やレジ袋の有料化といった規制や施策が発表されています」

「開催前夜の北京市内は、
 広げ、電力・エネルギー需
 界の対中拠点へ成長してい
 けたらと思っています」

◆ ◆ ◆

——ところで、今年の夏
 には北京オリンピック開催
 が控えています。

「昨年は日中外交正常化35周年の節目で、両国の「ミニニケーション」活性化に関わる仕事に携わることができました。今年も総領・副総領・副助の「三副」の気持ちを結ばず、希望を持って働くことが」

「働きぶりと同様、お酒もハードにいける」とは
 郎社長の評。本人いわく日本の酒は「ビールなら
 たっぷり飲める『スーパードライ』、日本酒は獨で
 んだ杯酒が忘れられない」。郷里・彦根市に家族
 風呂、単身で北京に。子年生まれの48歳。

